# 職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	9 <b>4.1. –</b> .	設置認可年	月日	校長名	<b>=</b>	162-0843	所在地					
専門学校東京ホスピ アカデミー		昭和54年10	月1日	千葉 敦	(住所)	東京都新宿区市谷田 03-3235-5713	3世73-21					
設置者名	<u>設置者名</u> <u>設立認可年月日</u> 代表者名											
学校法人21世紀アプ						∃駿河台2-11						
分野	Ī	認定課程名		定学科名		引士認定年度	高度専門士認定	年度	職業実践専	<b>評門課程認定年度</b>		
商業実務	街	光専門課程	旅行学科	トラベル専攻	平成	7(1995)年度	_		平成2	7(2015)年度		
		)ニーズ(コミュニケー きる人財の育成を目		ゼンテーション能力	・考える力・ヒ	ジネスマナー)に合った	たカリキュラムを実施し、	旅行・観光	業界と共同し	ながら卒業後に社		
学科の特徴(取得可 能な資格、中退率 等)		旅行取扱管理者、旅	程管理主任者、	国内∙海外地理検定	≧、インフィニキ	<b></b>						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必	要な総授業時数 単位数	又は総計	<b>構義</b>	演習	実習	実馴	<b>ф</b>	実技		
2	昼間	※単位時間、単位いずれ かに記入	1,920 単	-,	3 単位時間 単位	0 単位時間 単位	992 単位時間 単位		単位時間 単位	0 単位時間 単位		
生徒総定員	生徒実	€員(A) 留学:	生数(生徒実員の内容		割合(B/A)	+44	+14		+12	+12		
70 人	35	Д	8 人	. 23	3 %							
	■卒業者			10	<u> </u>							
	■就職者			10 10	<u> </u>							
	■地元就I ■就職率	職者数 (F)		10 100	人 %							
l.		こ占める地元就職者	の割合 (F/E)									
	■卒業者に	こ占める就職者の割れ	合(E/C)	100	%							
	■進学者		·	100	人							
	■是子母記	<u> </u>		0								
	(令和	, == , ,,,	者に関する令和4	年5月1日時点の情	<b></b>							
	■王な就り (令和6年度)	敞 <b>先、</b> 業界等										
	旅行業界	十未工/										
	■早間の	評価機関等から第3	=者証価・			 無						
		計Ⅲ機関寺から第二 、例えば以下についてſ				717						
学校評価		評価団体:		受審年月:			評価結果を掲載した					
N/ = 1 224 T.J. =				~и г/и ·			ホームページURL					
当該学科の ホームページ	https://ww	ww.tit.ac.jp/departn	nent/travel/									
URL												
		時間による算定)										
		総授業時数						•	単位時間			
				験・実習・実技の授	爱業時数 —————				単位時間			
			等と連携した演 <sup>:</sup> 	省の授耒時数 					单位時間  単位時間			
		フラ処態		 連携した必修の実験	全里里,里生 1	まの揺業時数		·	单位时间  单位時間			
				連携した必修の実際  連携した必修の演習		文07支未时数			单位时间 ————— 单位時間			
A 446 676 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		(うち企		建榜した必修の演音 インターンシップの インターンシップの					单位时间 单位時間			
企業等と連携した 実習等の実施状況		( ) ) II						3202	7187			
(A、Bいずれか に記入)	(B:単位	数による算定)										
		総授業時数						<u> </u>	単位			
		うち企業	等と連携した実際	験・実習・実技の授	<b>受業時数</b>			È	単位			
		うち企業	等と連携した演	習の授業時数				È	単位			
		うち必修	授業時数						単位			
				連携した必修の実験		支の授業時数			単位			
		(5.1.1		連携した必修の演習					単位			
		(つち企	.未寺と埋携した	インターンシップの	/ 授耒時剱)			<u>i</u>	単位			
			ヨロナルフェナク									
		① 専修学校の専門		[第1号)	1,	λ						
		その担当する教育等 程の修業年限と当該	に従事した者でる		程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六 年以上となる者							
		その担当する教育等 程の修業年限と当該	に従事した者でる		. (守修子							
		その担当する教育等 程の修業年限と当該 年以上となる者	に従事した者でる 業務に従事した!		•	校設置基準第41条第1項	(第2号)	2 ,				
数昌の属性 (事任		その担当する教育等 程の修業年限と当該 年以上となる者 ② 学士の学位を有	に従事した者でる 業務に従事した!		(専修学			·				
教員について記		その担当する教育等 程の修業年限と当該 年以上となる者 ② 学士の学位を有 ③ 高等学校教諭等	に従事した者では 業務に従事した 対 する者等 経験者		(専修学	校設置基準第41条第1項	(第3号)		λ			
		その担当する教育等程の修業年限と当該年以上となる者 ② 学士の学位を有 ③ 高等学校教諭等 ④ 修士の学位又は	に従事した者では 業務に従事した 対 する者等 経験者		(専修学 (専修学 (専修学	校設置基準第41条第1項校設置基準第41条第1項	第3号)	1,	<u>ل</u>			
教員について記		その担当する教育等 程の修業年限と当該 年以上となる者  ② 学士の学位を有  ③ 高等学校教諭等  ④ 修士の学位又は  ⑤ その他	に従事した者では 業務に従事した 対 する者等 経験者		(専修学 (専修学 (専修学	校設置基準第41条第1項	第3号)	1 ,	L L			
		その担当する教育等程の修業年限と当該年以上となる者 ② 学士の学位を有 ③ 高等学校教諭等 ④ 修士の学位又は	に従事した者では 業務に従事した 対 する者等 経験者		(専修学 (専修学 (専修学	校設置基準第41条第1項校設置基準第41条第1項	第3号)	1,	L L			
教員について記		その担当する教育等程の修業年限と当該年以上となる者 ② 学士の学位を有 ③ 高等学校教諭等 ④ 修士の学位又は ⑤ その他 計	に従事した者でる 業務に従事した事 する者等 経験者 専門職学位	期間とを通算して六	(専修学 (専修学 (専修学	校設置基準第41条第1項校設置基準第41条第1項校設置基準第41条第1項	(第3号) (第4号) (第5号)	1 ,	Д Д			
教員について記		その担当する教育等程の修業年限と当該年以上となる者 ② 学士の学位を有 ③ 高等学校教諭等 ④ 修士の学位又は ⑤ その他 計	に従事した者で 業務に従事した する者等 経験者 専門職学位 実務家教員(分野	期間とを通算して六	(専修学 (専修学 (専修学	校設置基準第41条第1項校設置基準第41条第1項	(第3号) (第4号) (第5号)	1 ,	L L			

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

日々変わりゆく旅行業界のなかでも、接客マインド溢れる人材だけは変わることなく常に必要とされ続けてきた。だが一方で、ITの発達により販売チャネルが変化しつつあることも見逃すことはできない。オールラウンドなあらゆる知識を備えた業界人を醸成しようとするトラベル専攻では、その商品の造成過程をしっかりと認識し、どの顧客層にいかにアプローチするかを知ることは大切な資質となる。

企業と連携する授業では、優れた業界人を輩出するため、様々な職種に対応できる知識とスキルを学ぶことに主眼を置く。

## (2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む 教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

#### (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年8月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
中込 元		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	1
柏倉 幸彦	年   一 ~ 2 :	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	3
永井 竜介		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	_

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
  - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
  - ②学会や学術機関等の有識者
  - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年11月28日 16:00~17:00

第2回 令和7年3月25日 16:00~17:00

#### (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

コロナ渦が解消され、インバウンド業界は大きく伸びているが、日本人の旅行者数は横ばいの状況が続いている。旅行業界を目指す若い世代に、旅行の楽しさや旅行に行くことのメリットを感じてもらい将来につなげるために、校外授業を増やすという提案があり、旅行ゼミ授業の中で取り入れていく予定である。また、PCスキルや外国語の重要性についても、全体としての目標設定や達成レベルに課題があり、授業内容の検討を行う。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

「旅行業界が求める人材の育成」を実現するため、企業と連携した実践的な実習授業を行う事により、実践的かつ専門的能力をもった業界人を育成することが基本方針である。

具体的には、企業もしくは団体により実習における教育内容に関連する指導方法、評価方法、教材作り等に対する助言、 資料等の提供を受け、科目を担当する教員と連携団体の講師がこれに検討を加え、実践的な授業の改善及び工夫を行っ ていくものとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

旅行ゼミの授業では、様々な業態の旅行会社の現役社員を講師として実習・演習を行っている。株式会社エイチ・アイ・エス様を講師とする授業では、旅行カウンター教室を利用し、販売ロールプレイングやパンレットに基くディストネーション研究など実際の店舗と同じ内容で実践的な力を身につけている。また、株式会社エアトリ様とは、同社ホームページに掲載するための国内ツアープランニング授業を行い、企画力やプレゼンテーションカの向上を目指している。それぞれ接客スキルと課題作品・プレゼンテーションを数値化し成績評価としている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連携企業等					
旅行ゼミ	旅行商品の予約・販売を校内実習教室を使い、他学科学 旅行ゼミ 生を対象に実施。接客スキルやパッケージ商品の読み方 などを学ぶ。						
オンライントラベルエージェントとしての国内ツアープラン 旅行ゼミ ニング指導を実施。宿泊研修と連動させ、実地調査を活か 株式会社エアトリ した企画の作り方や見せ方を学ぶ。							
旅程管理研修	添乗員に必須の資格である国内旅程管理主任者を取得 することを目的とし、学内講座と日帰りバス研修を実施。	株式会社阪急トラベルサポート					

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
- ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
- ①専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

## (2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 国際ツーリズムトレードショー視察 連携企業等:株式会社JTBなど

期間: 令和7年6月26日 対象: 学科職員

内容 観光業界のDX化の現状視察と今後学生たちに必要となる知識やスキルの情報収集

#### ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教育現場におけるコーチング 連携企業等:日本スクールコーチ協会

期間: 令和6年6月5日 15:30~17:00 対象: 全教職員

内容コーチングの基本となる考え方を学び、教育現場での学生への活用をのし方を学んだ。

#### (3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 地方創生ツーリズムEXPO視察 連携企業等: 未定

期間: 令和7年11月28日 対象: 学科職員

内容 地方創生のための様々なツーリズムを学び、次年度カリキュラム作成への情報収集

## ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: アカデミックハラスメント研修 連携企業等: NPOアカデミックハラスメント研修

期間: 令和7年12月 対象: 全教職員

内容・カッテアナルに向けれ、対応を覚え

<sup>内谷</sup> カハラ防止に向けた対応を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1)学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの 柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

	グ 共 日 C O 7 月 心
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2)学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3)教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7)学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8)財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11)国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営を、レベル別クラスに分割して行うなど、より学生の状況にあわせてものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

## (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所属	任期	種別
高木 友子		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
野口 幸一		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
木村 克也		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
西田 篤史		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
小林 隆		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
米倉 洲		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	卒業生

))

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

URL:

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・ その他(

https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html

公表時期: 令和7年9月1日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況 に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評 価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していく ものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

	<u> </u>
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・ その他(

))

https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html 令和7年9月1日 URL:

公表時期:

# 授業科目等の概要

	#RE	-														
		分類							授	業プ		場	所	教	員	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習・実技		校外		兼任	企業等との連携
1	0			国家試験対策	国内及び総合旅行業務取扱管理者資格の取 得を目指す	一前 2 前	##	28	0			0		0	0	
2	0			ス(旅行会社	旅行会社社員による講座で、最新の知識や 情報を学び、旅行の企画から造成、集客ま で、一連の流れを習得する	通	96	6	0			0		0	0	
3	0			ユニバーサル ホスピタリ ティ(SPI対 策)	旅行会社に就職するための知識を学ぶ	一通・2前	96	6	0			0		0	0	
4	0			海外観光地理	世界遺産等をはじめとする観光地理につい て学ぶ	1 後	64	4	0			0			0	
5	0				時差計算、航空時刻表の読み方、海外の鉄 道時刻表の読み方など、海外旅行の基礎的 知識を学ぶ		32	2	0			0		0	0	
6	0			航空運賃	国際線の航空運賃計算について学ぶ	1 後	64	4	0			0		0	0	
7	0			旅 行 知 識 I (旅行業界研 究)	旅行業界の現状と動向について学ぶ	1 通	64	4	0			0		0		
8	0			旅行演習Ⅱ	リアルビジネス(旅行会社実践授業)から の流れで行う、グループワーク中心の実習 授業。	-後・2後	##	12			0	0		0	0	0
9	0			予約端末実習 (AXESS)	航空会社端末による空席照会(JAL)	一通・2前	96	6			0	0			0	
10	0			就 職 対 策 (キャリアガ イダンス)	自己PRや面接練習等を行う	↑後・2 並	64	4	0			0		0		
11	0			実 用 英 語 (TOEIC)	TOEIC対策授業で600点以上のスコアを目指 す	·送 	##	16	0			0		0	0	
12	0			実用英語(旅 行英語)	海外旅行で必要な英語を学習する	T通・2涌	##	8	0			0		0	0	

13	0			習・パソコン 実習(WEBデ	旅行会社では、パソコンのスキルは必須であり、パソコンを使い、旅行パンフレット およびホームページの効果的な作成方法な どを総合的に学んでいく	世	##	8		0	0			0	
14	0				社会人として必要な立ち居振る舞い・言葉 使いなどを習得する	#   	64	4	0		0			0	
15	0			卒業制作	2年間の集大成として、旅行イベントを企 画・立案・実践する	2 後	96	6		0	0		0	0	
16		0		貿易実務(各 種概論)	サービス業界を学ぶ(ホテル、鉄道、ブラ イダル、エアライン)	2 後	32	2	0		0			0	
17		0		手話	手話検定4級を目指す	2 後	32	2	0		0		0		
18		0		旅程管理	旅程管理主任者を目指す(国内)	1 後	32	2	0			0		0	
19			0	手話	手話検定4級を目指す	1 後	32	2	0		0			0	
20			0	英会話	ネイティブ講師による日常英会話	1 通	64	4	0		0			0	
21			0	パソコン実習	ワードとエクセルの基本操作	1 通	64	4		0	0			0	
22			0	旅程管理	旅程管理主任者を目指す(海外)	1 後	32	2		0		0		0	0
23			0	ホテル概論	ホテル・宿の知識を得る	2 通	64	4	0		0			0	
24			0	企業実習	旅行会社でのインターンシップ	-後・2%	##	20		0		0			
			合	<b>=</b>	24	· 杉	目			2560	単位	立 (	単位	時間	])

卒業要件及び履修方法	授業期間等			
卒業要件: 108単位以上を取得。その内必修・必修選択科目は96単位以上取得し	1 学年の学期区分	2 期		
履修方法:必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる。	1 学期の授業期間	16 週		

#### (留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

# 職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設	置認可年月	月日	校長名							
専門学校東京ホスヒ		昭和	和54年10月	18	   千葉	製		162-0843 東京都新宿区市谷田	I⊞T3-21			
アカデミー		(電話) 03-3235-5713 設立認可年月日 代表者名										
設置者名		設.	立認可年	<u> </u>	【 代表	:百名	〒	101-0062	所在地			
学校法人21世紀ア	カデメイア	昭和	和42年1月	12日	田坂	広志		東京都千代田区神田 03-3292-0662	駿河台2-11			
分野	Ē	認定課程名	7	+= <- == 1.1	認定学科名		専	門士認定年度	高度専門士認定	年度	職業実践	専門課程認定年度
商業実務	額	光専門課	程	旅行字科 	・ツアーコ: 専攻	ンタクター	平瓦	戈 7(1995)年度	-		平成:	27(2015)年度
	旅行業界の 会に貢献で					・ション能力	・考える力・ヒ	ごジネスマナー)に合っナ	こカリキュラムを実施し	、旅行·観 <del>ː</del>	光業界と共同し	
学科の特徴(取得可 能な資格、中退率 等)		旅行取扱管	<b>营理者、旅</b> 科	呈管理主任者	皆、国内•海绵	外地理検定	こ、インフィニ	検定				
修業年限	昼夜	全課程の		更な総授業時 位数	持数又は総	講	義	演習	実習	身	<b>ミ験</b>	実技
2	昼間	※単位時間、 かに記入	単位いずれ	1,920	単位時間	1,568	<b>単位時間</b>	0 単位時間単位	992 単位時間	(	) 単位時間 単位	0 単位時間
生徒総定員	生徒実	L E員(A)	留学生	<b>数</b> (生徒実員の		留学生割	<sup>単位</sup> 割合(B/A)	+位			平位	
70 人	5	人		0	) 人	0	) %					
70 %	■卒業者		:		3		人					
	■就職希	望者数(D)	) :		1		<del>\frac{\frac}}}}}}}}{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac}}}}}}}}}{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac{\frac}}}}}}}}}}{\frac}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}</del>					
	■就職者	<u>数(E)</u> 職者数(F)	:		1 1		<u>人</u> 人					
	■就職率	(E/D)			100		%					
	■就職者は	に占める地	元就職者の	)割合(F/E)			04					
	■卒業者に	こ占める就理	職者の割合	(E/C)	100		%					
			~	-	33		%					
就職等の状況	■進学者	奴			0		人					
	(令和	G	: 在	シア問ナスク	和 4 年 5 日 1	口味占のは	三去口 /					
	  ■主な就			に関する行う	和4年5月1	日時息の情	<b>手</b>					
	(令和6年度		· <del>च</del>									
	旅行業界	+**										
	■民間の ※有の場合							無				
第三者による 学校評価		· MACION I	10 00 01	心心纵								
于"X 計 Ш		評価団体:				受審年月:			評価結果を掲載した ホームページURL			
 当該学科の												
	https://w\	ww.tit.ac.jp	/departme	ent/travel/								
URL												
	(A:単位	時間による	算定)									
		総授業時数								2, 560	0 単位時間	
			うち企業等	 等と連携した	実験・実習	<ul><li>実技の授</li></ul>	 業時数			224	4 単位時間	
			うち企業等	 等と連携した	 :演習の授業	———— 時数				(	 0 単位時間	
			うち必修技								0 単位時間	
			7 32 1913		ニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニー		. 宝翌,宝	 技の授業時数			4 単位時間	
								[文V]文米·叶奴				
			(= + A #				の授業時数				0 単位時間	
企業等と連携した			(フち企業	*寺と埋携し	たインター	フンツフの	· 按耒時奴)			320	0 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか												
に記入)		数による算							,			
		総授業時数									単位	
			うち企業等	等と連携した	実験・実習	・実技の授	業時数				単位	
			うち企業等	等と連携した	−演習の授業	時数					単位	
			うち必修技	受業時数							単位	
				うち企業等	等と連携した	必修の実験	・実習・実	技の授業時数			単位	
				うち企業等		必修の演習	一				単位	
			(うち企当		たインター						 単位	
			1	, _ ,_ ,, ,								
										_		
		① 連修学	2校の専門部	<b>果程を修了</b> 」	た後、学校	等において						
		その担当す	る教育等に	二従事した者	fであって、	当該専門課	(市校学	校設置基準第41条第1項	第1号) 第1号)		1 人	
	その担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者											
	サダエになる日											
		② 学士の	)学位を有す	る者等			(専修学	校設置基準第41条第1項	第2号)	:	2 人	
  教員の属性(専任		③ 高等学		 E験者			(専修学		第3号)		人	
教員について記			学位又は専					校設置基準第41条第1項			1人	
入)				F1 ]4战于1处								
		⑤ その他	ñ				( 専修学	空校設置基準第41条第1項 —————————————————————	<b>第</b> 0号)			
		計									4 人	
		<b>上記①~</b> 6	のうち 雪	E 森家教旨 (	(分野におけ	るおおかわ	5年以上の雪	 実務の経験を有し、かつ	)、高度の			
				きが多数員( 首を想定)の		~ 03 03 C 14	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			:	2 人	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

日々変わりゆく旅行業界のなかでも、接客マインド溢れる人材だけは変わることなく常に必要とされ続けてきた。AIやITの発達により旅行商品の造成方法や販売方法は大きく変化したが、ツアーコンダクターに求められる資質は、AIやITでは対応できない変わらない部分も多く残っている。この専攻では、旅行業界で活躍するためのオールラウンドな知識をを身につけるとともに、ツアーコンダクターとしての接客スキルやトラブルへの対応ができる人材を育成する授業内容を目指している。

## (2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

#### (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

**今和7年8月1日現在** 

名 前	所 属	任期	種別
中込 元		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	1
柏倉 幸彦		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	3
永井 竜介		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	-

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。
- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
  - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
  - ②学会や学術機関等の有識者
  - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年11月28日 16:00~17:00 第2回 令和7年3月25日 16:00~17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

コロナ渦が解消され、インバウンド業界は大きく伸びているが、日本人の旅行者数は横ばいの状況が続いている。旅行業界を目指す若い世代に、旅行の楽しさや旅行に行くことのメリットを感じてもらい将来につなげるために、校外授業を増やすという提案があり、旅行ゼミ授業の中で取り入れていく予定である。また、PCスキルや外国語の重要性についても、全体としての目標設定や達成レベルに課題があり、授業内容の検討を行う。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

「旅行業界が求める人材の育成」を実現するため、企業と連携した実践的な実習授業を行う事により、実践的かつ専門的能力をもった業界人を育成することが基本方針である。

具体的には、企業もしくは団体により実習における教育内容に関連する指導方法、評価方法、教材作り等に対する助言、 資料等の提供を受け、科目を担当する教員と連携団体の講師がこれに検討を加え、実践的な授業の改善及び工夫を行っ ていくものとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

旅行ゼミの授業では、様々な業態の旅行会社の現役社員を講師として実習・演習を行っている。株式会社エイチ・アイ・エス様を講師とする授業では、旅行カウンター教室を利用し、販売ロールプレイングやパンレットに基くディストネーション研究など実際の店舗と同じ内容で実践的な力を身につけている。また、株式会社エアトリ様とは、同社ホームページに掲載するための国内ツアープランニング授業を行い、企画力やプレゼンテーションカの向上を目指している。それぞれ接客スキルと課題作品・プレゼンテーションを数値化し成績評価としている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連携企業等					
旅行ゼミ	旅行商品の予約・販売を校内実習教室を使い、他学科学 旅行ゼミ 生を対象に実施。接客スキルやパッケージ商品の読み方 などを学ぶ。						
オンライントラベルエージェントとしての国内ツアープラン 旅行ゼミ ニング指導を実施。宿泊研修と連動させ、実地調査を活か した企画の作り方や見せ方を学ぶ。 株式会社エアトリ							
旅程管理研修	添乗員に必須の資格である国内旅程管理主任者を取得 することを目的とし、学内講座と日帰りバス研修を実施。	株式会社阪急トラベルサポート					

#### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
- ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
- ①専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

## (2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 国際ツーリズムトレードショー視察 連携企業等:株式会社JTBなど

期間: 令和7年6月26日 対象: 学科職員

内容観光業界のDX化の現状視察と今後学生たちに必要となる知識やスキルの情報収集

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教育現場におけるコーチング 連携企業等:日本スクールコーチ協会

期間: 令和6年6月5日 15:30~17:00 対象: 全教職員

内容 コーチングの基本となる考え方を学び、教育現場での学生への活用をのし方を学んだ。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 地方創生ツーリズムEXPO視察 連携企業等: 未定

期間: 令和7年11月28日 対象: 学科職員

内容 地方創生のための様々なツーリズムを学び、次年度カリキュラム作成への情報収集

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: アカデミックハラスメント研修 連携企業等: NPOアカデミックハラスメントをなくすネットワーク

期間: 令和7年12月 対象: 全教職員

内容
アカデミックハラスメントの事例をもとに、学生とのコミュニケーション方法や学内での報告体制づくりなどア

<sup>7745</sup> カハラ防止に向けた対応を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1)学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連 業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの 柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念•目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2)学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3)教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7)学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8)財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11)国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営を、レベル別クラスに分割して行うなど、より学生の状況にあわ せてものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

#### (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所属	任期	種別
高木 友子		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
木村 克也	日本マナー・プロトコール協会	01 H (2 + /	協会役員
西田 篤史	株式会在Feeling Design	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
小林 隆	有限会社果武旅行サービス	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
米倉 洲		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・ その他( ))

https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html 令和7年9月1日 URL:

公表時期:

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況 に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・ その他(

))

URL: https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html

公表時期: 令和7年9月1日

# 授業科目等の概要

	#RE	-														
		分類							授	業プ		場	所	教	員	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習・実技		校外		兼任	企業等との連携
1	0			国家試験対策	国内及び総合旅行業務取扱管理者資格の取 得を目指す	一前 2 前	##	28	0			0		0	0	
2	0			ス(旅行会社	旅行会社社員による講座で、最新の知識や 情報を学び、旅行の企画から造成、集客ま で、一連の流れを習得する	通	96	6	0			0		0	0	
3	0			ユニバーサル ホスピタリ ティ(SPI対 策)	旅行会社に就職するための知識を学ぶ	一通・2前	96	6	0			0		0	0	
4	0			海外観光地理	世界遺産等をはじめとする観光地理につい て学ぶ	1 後	64	4	0			0			0	
5	0				時差計算、航空時刻表の読み方、海外の鉄 道時刻表の読み方など、海外旅行の基礎的 知識を学ぶ		32	2	0			0		0	0	
6	0			航空運賃	国際線の航空運賃計算について学ぶ	1 後	64	4	0			0		0	0	
7	0			旅 行 知 識 I (旅行業界研 究)	旅行業界の現状と動向について学ぶ	1 通	64	4	0			0		0		
8	0			旅行演習Ⅱ	リアルビジネス(旅行会社実践授業)から の流れで行う、グループワーク中心の実習 授業。	-後・2後	##	12			0	0		0	0	0
9	0			予約端末実習 (AXESS)	航空会社端末による空席照会(JAL)	一通・2前	96	6			0	0			0	
10	0			就 職 対 策 (キャリアガ イダンス)	自己PRや面接練習等を行う	↑後・2 並	64	4	0			0		0		
11	0			実 用 英 語 (TOEIC)	TOEIC対策授業で600点以上のスコアを目指 す	·送 	##	16	0			0		0	0	
12	0			実用英語(旅 行英語)	海外旅行で必要な英語を学習する	T通・2涌	##	8	0			0		0	0	

13	0			習・パソコン	旅行会社では、パソコンのスキルは必須であり、パソコンを使い、旅行パンフレット およびホームページの効果的な作成方法な どを総合的に学んでいく	進	" "	8		0	0			0	
14	0				社会人として必要な立ち居振る舞い・言葉 使いなどを習得する	<b>监</b>	64	4	0		0			0	
15	0			卒業制作	2年間の集大成として、旅行イベントを企 画・立案・実践する	2 後	96	6		0	0		0	0	
16		0			サービス業界を学ぶ(ホテル、鉄道、ブラ イダル、エアライン)	2 後	32	2	0		0			0	
17		0		手話	手話検定4級を目指す	2 後	32	2	0		0		0		
18		0		旅程管理	旅程管理主任者を目指す(国内)	1 後	32	2	0			0		0	0
19			0	手話	手話検定4級を目指す	1 後	32	2	0		0			0	
20			0	英会話	ネイティブ講師による日常英会話	1 通	64	4	0		0			0	
21			0	パソコン実習	ワードとエクセルの基本操作	1 通	64	4		0	0			0	
22			0	旅程管理	旅程管理主任者を目指す(海外)		32	2		0		0		0	
23			0	ホテル概論	ホテル・宿の知識を得る		64	4	0		0			0	
24			0	企業実習	旅行会社でのインターンシップ	−後・2%		20		0		0			
			合	計	24	科	·目			2560	単位	立 (	単位	時間	引)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 108単位以上を取得。その内必修・必修選択科目は96単位以上取得し	1 学年の学期区分	2 期
履修方法:必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる。	1 学期の授業期間	16 週

#### (留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

# 職業実践専門課程等の基本情報について

### 1979-25-10   Philosophic   Table   Table	学校名	設置認可年月日 校長名 160,0042						所在地				
新聞		ペピダリティ・   昭和54年10月1日										
中部に入りを開発アルディアン		(電話) 03-3235-5713										
###												
	字校法人21世紀/1 	カナメイア	昭和42年1月 	12日	田巩 広志	- Z			駿川台2-11			
対象の目的						ン更			高度専門士認定	官年度		
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	一 商業実務 ————	額	見光専門課程 	רוי בי נואוג		,,,,,,	平成	7(1995)年度			平成2	7(2015)年度 ————————————————————————————————————
### (中級)	学科の目的				プレゼンテーション	√能力・ᅒ	考える力・ビ	ジネスマナー) に合っ <i>t</i>	こカリキュラムを実施し	、旅行・観光	光業界と共同し	ながら卒業後に社
数数   おおか   おおか   おおか   おおか   おおか   おおか   おおか   の   の   の   の   の   の   の   の   の	能な資格、中退率	国内·総合	旅行取扱管理者、旅	程管理主任者	舌、国内·海外地理	里検定、	インフィニ杉	定				
全様では、	修業年限	昼夜			特数又は総	講	<b></b>	演習	実習	身	<b>ミ験</b>	実技
生物の	2	昼間	  ※単位時間、単位いずれ	1,920		•				(		0 単位時間
770人 0人 0人 0人 0人 0分	年		が「こむ人		単位	Ė	单位	単位	<u>単位</u>		単位	単位 
# (でも、	生徒総定員	生徒実	€員(A) 留学:	生数(生徒実員の	n内数)(B) 留章	学生割 <sup>·</sup>	合(B/A)					
■ 記録を書き合との: 0 人 ■ 記録を表しています。 0 人 ■ 記録を表しています。 0 人 ■ 記録を表したのとは知者のの旨命(F/C) 0 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	70 人	0	Д	0	人	0 %						
■ 変数性変形( ) 0 人						,	<u> </u>					
## 地元成社等後(*) 0 人 							1					
製造機能にあらる形成をの余合(F/E)   日本書作品の合品をの余合(F/E)   日本書作品の合品をの余合(F/E)   日本書作品   日本書		■地元就即	職者数(F)		0		\					
□ 東美者性				の割合 (F/F)		Ç	<u>%</u>					
第2字音数					_	ç	%					
数目の		■卒業者に	こ占める就職者の割る	≘(E/C)	0	c						
### (中43	お 職 生 の 仕 コ		数									
■ またの対性が、実際等 (今取出年本年本生) (今取出年本年本生) (本年本年本年本年) (本年本年本年) (本年本年本年) (本年本年本年) (本年本年本年) (本年本年本年) (本年本年末年) (本年本年末年) (本年本年末年) (本年本年) (本年本年末年) (本年本年末年) (本年本年末年) (本年本年末年) (本年本年末年) (本年本年末年) (本年本年末年末年) (本年本年末年末年) (本年本年末年末年) (本年本年末年末年) (本年本年末年末年) (本年本年末年末年末年) (本年本年末年末年) (本年本年末年末年末年) (本年本年末年末年末年) (本年本年末年末年末年末年) (本年本年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末	が、現守の状況											
■ またの対性が、実際等 (今取出年本年本生) (今取出年本年本生) (本年本年本年本年) (本年本年本年) (本年本年本年) (本年本年本年) (本年本年本年) (本年本年本年) (本年本年末年) (本年本年末年) (本年本年末年) (本年本年) (本年本年末年) (本年本年末年) (本年本年末年) (本年本年末年) (本年本年末年) (本年本年末年) (本年本年末年末年) (本年本年末年末年) (本年本年末年末年) (本年本年末年末年) (本年本年末年末年) (本年本年末年末年末年) (本年本年末年末年) (本年本年末年末年末年) (本年本年末年末年末年) (本年本年末年末年末年末年) (本年本年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末年末												
■ これの記録先、業界等 ・今年の年度年金生 ・												
今初の年度本業主    今初の年度本業主    一			, ,	者に関する令	和4年5月1日時	点の情報	로)					
# 三者による 字板部値												
# 日本の			卒業生)									
第三者による 学校辞書  ***  **  **  **  **  **  **  **  **		<del>+*</del> ±0										
第二日による 学校評価  当該学科の ホームページ  Inttps://www.tstac.jp/department/travel/  URL  (A. 単位時による算定)  程度業時数  3 5 位 接受と連携した実験・実習・実技の授業時数  3 5 位 接受と連携した実験・実習・実技の授業時数  3 6 必修程等時数  3 6 必修理等時数  3 6 必修理等時数  3 6 少を集争と連携した必修の演習の原業時数  (B. 単位数による算定)  程度業時数  (B. 単位数による可定)  (C. 大変管・支援機した必修の演習の原業時数  第位  3 5 企業等と連携したインターンシップの授業時数  第位  3 5 企業等と連携した必要・変管・支援の授業時数  第位  3 5 企業等と連携した必要・変管・支援の授業時数  第位  3 5 企業等と連携した必要・変管・支援の授業時数  第位  3 5 企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数  第位  3 5 企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数  第位  (3 5 企業等と連携したグラーンシップの授業時数)  第位  (3 5 企業等と連携したグラーンシップの授業時数)  第位  (3 5 企業等と連携したグラーンシップの授業時数)  第 4位  3 6 企業等と連携したインターンシップの授業時数  第 4位  3 6 企業等と連携したインターンシップの授業時数  第 4位  3 6 企業等と連携したインターンシップの授業時数  第 4位  3 6 での等日本経過で表別で表したである。  (								無				
##		※有の場合。 	、例えば以下についてた	士忌記載								
当該学科の	子仪評価		評価団体:		受審任	年月:						
### https://www.tit.ac.jp/department/travel/ URL  (A: 単位時間による算定)  (A: 単位時間による算定)  (A: 単位時間による算定)  和授業等数												
(A:単位時間による算定)    日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日	ホームページ	https://wv	ww.tit.ac.jp/departm	nent/travel/								
製技・	URL											
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		(A:単位	時間による算定)									
3 5企業等と連携した漢字の機能を発した。   3 5企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数   1,920 単位時間   3 5 6 2 2 4 単位時間   3 5 6 2 2 3 2 0 里位時間   3 5 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			総授業時数							2, 560	)単位時間	
3 も必修授業時效			うち企業	等と連携した	実験・実習・実技	支の授業	時数			224	4 単位時間	
うち企業等と連携した 変響をと連携した 変響の実施状況 (人 B しげずれか)   日:単位数による算定)			うち企業	等と連携した	:演習の授業時数					0 単位時間		
② 学士の学位を有する書等 ② 学士の学位を有する書等 ② 学士の学位を表する書等 ② 学士の学位を表する書等 ② 学士の学位を表する書等 ② 学士の学位を表する書等 ③ 多点の属性 教員について記 入)  「京都学校教諭等経験者 (海修学校設置基準第41条第1項第3号) ② 第4の世位文は専門職学位 (海修学校設置基準第41条第1項第3号) ② 第4の世位文は専門職学位 (海修学校設置基準第41条第1項第4号) ③ 高等学校教諭等経験者 (海修学校設置基準第41条第1項第3号)			うち必修	授業時数						1, 920	) 単位時間	
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)  (B:単位数による研定)  総授業時数  「お企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数  「お企業等と連携した演習の授業時数  「お企業等と連携した適習の授業時数  「お企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数  「お企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数  「お企業等と連携した必修の演習の授業時数  「お企業等と連携した必修の演習の授業時数  「お企業等と連携した必修の演習の授業時数  「お企業等と連携した必修の演習の授業時数  「お企業等と連携したがのでの表験・実習・実技の授業時数  「お企業等と連携したが必ずの選習の授業時数  「お企業等と連携したが必ずの選習が表まらな。  「本のでは、また、学校等において その担当する教育等に従事した利用とを通算して大 (海修学校設置基準第41条第1項第1号)  「本の場合となる者  「本の学校教育等に従事した期間とを通算して大 (海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学校教育等に従事した関間とを通算して大 (海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学校教育を経験者 (海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学位文な情等と通常は、「海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学位文な情等と表情的である。「海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学位文な情報を表し、「海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学位文を表し、「海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学位文を表し、「海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学位文な情報を表し、「海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学校教育を表し、「海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学校教育を表し、「海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学位を表し、「海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学位を表し、「海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学位を表し、「海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学位を表し、「海修学校設置基準第41条第1項第3号)  「本の学校設置基準第41条第1項第3号)				うち企業等	まと連携した必修の	の実験・	実習・実技	ちの授業時数		224	4 単位時間	
1 (日本等 と連携した 美智等の実施 大沢 (A、B いずれか (こ記入)				うち企業等	まと連携した必修の	 の演習σ	)授業時数			(	)単位時間	
(A、Bいずれか (こ記入)     記しずれか			(うち企	 業等と連携し	たインターンシッ	ップの授	業時数)			320	) 単位時間	
(A、Bいずれか に記入)   記して記入	実習等の実施状況											
総授業時数 単位	(A、Bいずれか	(B:単位	数による算定)									
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数   単位   うち必修授業時数   単位   うち必修授業時数   単位   うち必修授業時数   単位   うち必修授業時数   単位   うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数   単位   うち企業等と連携した必修の演習の授業時数   単位   (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数   単位   (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)   単位   (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)   単位   (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)   単位   (うち企業等と連携したが、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した期間とを通算して六年以上となる者   (専修学校設置基準第41条第1項第2号)   1 人年以上となる者   (専修学校設置基準第41条第1項第3号)   人	一記人)										単位	
うち企業等と連携した演習の授業時数				等と連携し <i>た</i>	:実験・実習・実キ	支の授業	時数					
うち必修授業時数   単位   うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数   単位   うち企業等と連携した必修の演習の授業時数   単位   「うち企業等と連携したインターンシップの授業時数   単位   単位   単位												
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 単位   うち企業等と連携した必修の演習の授業時数   単位   うち企業等と連携したインターンシップの授業時数   単位   (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)   単位					- 12/2/20							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位   単位   (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)   単位   単位   (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)   単位   単位     (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)   単位     (事修学校の専門課程を修了した後、学校等において			プラ姫		と 連維した 心体/	の実験・	宝型. 宝世	5の授業時数				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 単位  ① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者  ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 2 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 1 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 人 計 4 人								<b>、</b> ✓//×本町奴				
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等において その担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程を修了した後、学校等において その担当する教育等に従事した相間とを通算して六 年以上となる者 ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 2 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 1 人			/5± A									
その担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者			(うち企	未守く理携し	ハニイ フォーンンド	テノの接	(木吋奴)				半四	
その担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者												
その担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者			① 車枚巻せの吉四		<b>七</b>							
程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者  ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) ② 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 1 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 人 計  上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の			その担当する教育等	に従事した者	であって、当該専	専門課	(亩攸学	校設置其淮第/1久第1酉	第1号)			
教員の属性 (専任教員について記入) (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 2人 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 人 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 1人 (事修学校設置基準第41条第1項第4号) 1人 (事修学校設置基準第41条第1項第5号) 人 計 4人				業務に従事し	た期間とを通算し	して六	(书修于"	人以巨坐干カリ木男  垻	A11.1/			
教員の属性 (専任教員について記入)  ③ 高等学校教諭等経験者  ④ 修士の学位又は専門職学位  ⑤ その他  (専修学校設置基準第41条第1項第5号)  人  計  上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の												
教員について記 入)  ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 1 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 人 計  上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の			② 学士の学位を有	 する者等			(専修学	校設置基準第41条第1項	第2号)		2 人	
教員について記 入)  ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 1 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 人 計  上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の	教員の属性(専任		③ 高等学校教諭等	経験者			(専修学	校設置基準第41条第1項	第3号)		人	
(専修学校設置基準第41条第1項第5号) 人 計 上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の	教員について記											
計 4 人 上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の 2 1	入)			71.14数子四								
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の							(	仪設直基準第41条第1項 ————————————————————————————————————	<b>第</b> 0亏)			
			計							•	4 人	
									· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
			上記①~⑤のうち、	実務家教員(	分野におけるおお		年以上の実	務の経験を有し、かつ	)、高度の			
						5 ,5 0				2	<u> </u>	
		1										

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

インバウンドの隆盛により、日本の旅行業界でも外国人人材の重要性は、ますます高まっておくものと予測される。留学生たちが、日本企業へ就職し長く活躍するための知識やスキルを身につけることを目的とする。企業連携授業においては、日本の旅行会社の仕事の内容や外国人人材に必要とされる知識などを、企業で活躍されている現役社員を講師として招くことで留学生に理解をしてもらう。

- (2)教育課程編成委員会等の位置付け
- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む 教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

#### (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年8月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
中込 元		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	1
柏倉 幸彦		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	3
永井 竜介		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	-

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
  - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
  - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
  - ②学会や学術機関等の有識者
  - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年11月28日 16:00~17:00 第2回 令和7年3月25日 16:00~17:00

## (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

コロナ渦が解消され、インバウンド業界は大きく伸びているが、日本人の旅行者数は横ばいの状況が続いている。旅行業界を目指す若い世代に、旅行の楽しさや旅行に行くことのメリットを感じてもらい将来につなげるために、校外授業を増やすという提案があり、旅行ゼミ授業の中で取り入れていく予定である。また、PCスキルや外国語の重要性についても、全体としての目標設定や達成レベルに課題があり、授業内容の検討を行う。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

「旅行業界が求める人材の育成」を実現するため、企業と連携した実践的な実習授業を行う事により、実践的かつ専門的能力をもった業界人を育成することが基本方針である。

具体的には、企業もしくは団体により実習における教育内容に関連する指導方法、評価方法、教材作り等に対する助言、 資料等の提供を受け、科目を担当する教員と連携団体の講師がこれに検討を加え、実践的な授業の改善及び工夫を行っ ていくものとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

旅行ゼミの授業では、様々な業態の旅行会社の現役社員を講師として実習・演習を行っている。株式会社エイチ・アイ・エス様を講師とする授業では、旅行カウンター教室を利用し、販売ロールプレイングやパンレットに基くディストネーション研究など実際の店舗と同じ内容で実践的な力を身につけている。また、株式会社エアトリ様とは、同社ホームページに掲載するための国内ツアープランニング授業を行い、企画力やプレゼンテーションカの向上を目指している。それぞれ接客スキルと課題作品・プレゼンテーションを数値化し成績評価としている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連携企業等			
旅行商品の予約・販売を校内実習教室を使い、他学科学 旅行ゼミ 生を対象に実施。接客スキルやパッケージ商品の読み方 などを学ぶ。 株式会社エイチ・アイ・エス					
旅行ゼミ	オンライントラベルエージェントとしての国内ツアープランニング指導を実施。宿泊研修と連動させ、実地調査を活か株式会社エフした企画の作り方や見せ方を学ぶ。				
旅程管理研修	添乗員に必須の資格である国内旅程管理主任者を取得 することを目的とし、学内講座と日帰りバス研修を実施。	株式会社阪急トラベルサポート			

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
- ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
- ①専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知 識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一 度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

#### (2)研修等の実績

<u>①専攻分野における実務に関する研修等</u>

研修名: 国際ツーリズムトレードショー視察 連携企業等:株式会社JTBなど

期間: 令和7年6月26日 対象: 学科職員

内容観光業界のDX化の現状視察と今後学生たちに必要となる知識やスキルの情報収集

## ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教育現場におけるコーチング 連携企業等:日本スクールコーチ協会

期間: 令和6年6月5日 15:30~17:00 対象: 全教職員

内容コーチングの基本となる考え方を学び、教育現場での学生への活用をのし方を学んだ。

#### (3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 地方創生ツーリズムEXPO視察 連携企業等: 未定

期間: 令和7年11月28日 対象: 学科職員

内容 地方創生のための様々なツーリズムを学び、次年度カリキュラム作成への情報収集

### ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: アカデミックハラスメント研修 連携企業等: NPOアカデミックハラスメント研修

期間: 令和7年12月 対象: 全教職員

内容・カッテアナルに向はた対応を覚え

<sup>内谷</sup> カハラ防止に向けた対応を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1)学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連 業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの 柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

7. 快口 こ 0 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7
学校が設定する評価項目
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
目的に沿った運営方針が策定されているか、など
教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
就職率の向上が図られているか、など
進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
募集活動は適正に行われているか、など
中長期的に財政基盤は安定しているか、など
法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営を、レベル別クラスに分割して行うなど、より学生の状況にあわせてものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

## (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所属	任期	種別
高木 友子		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
野口 幸一		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
木村 克也		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
西田 篤史		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
小林 隆	有限会社東武旅行サービス	0 I	企業役員
米倉 洲		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物 ・ その他( ))

URL: https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html

公表時期: 令和7年9月1日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況 に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していく ものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

))

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物 ・ その他(

URL: https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html

公表時期: 令和7年9月1日

# 授業科目等の概要

	#RE	-														
		分類							授	業プ		場	所	教	員	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習・実技		校外		兼任	企業等との連携
1	0			国家試験対策	国内及び総合旅行業務取扱管理者資格の取 得を目指す	一前 2 前	##	28	0			0		0	0	
2	0			ス(旅行会社	旅行会社社員による講座で、最新の知識や 情報を学び、旅行の企画から造成、集客ま で、一連の流れを習得する	通	96	6	0			0		0	0	
3	0			ユニバーサル ホスピタリ ティ(SPI対 策)	旅行会社に就職するための知識を学ぶ	一通・2前	96	6	0			0		0	0	
4	0			海外観光地理	世界遺産等をはじめとする観光地理につい て学ぶ	1 後	64	4	0			0			0	
5	0				時差計算、航空時刻表の読み方、海外の鉄 道時刻表の読み方など、海外旅行の基礎的 知識を学ぶ		32	2	0			0		0	0	
6	0			航空運賃	国際線の航空運賃計算について学ぶ	1 後	64	4	0			0		0	0	
7	0			旅 行 知 識 I (旅行業界研 究)	旅行業界の現状と動向について学ぶ	1 通	64	4	0			0		0		
8	0			旅行演習Ⅱ	リアルビジネス(旅行会社実践授業)から の流れで行う、グループワーク中心の実習 授業。	-後・2後	##	12			0	0		0	0	0
9	0			予約端末実習 (AXESS)	航空会社端末による空席照会(JAL)	一通・2前	96	6			0	0			0	
10	0			就 職 対 策 (キャリアガ イダンス)	自己PRや面接練習等を行う	↑後・2 並	64	4	0			0		0		
11	0			実 用 英 語 (TOEIC)	TOEIC対策授業で600点以上のスコアを目指 す	·送 	##	16	0			0		0	0	
12	0			実用英語(旅 行英語)	海外旅行で必要な英語を学習する	T通・2涌	##	8	0			0		0	0	

13	0			習・パソコン	旅行会社では、パソコンのスキルは必須であり、パソコンを使い、旅行パンフレット およびホームページの効果的な作成方法な どを総合的に学んでいく	進	" "	8		0	0			0	
14	0				社会人として必要な立ち居振る舞い・言葉 使いなどを習得する	前 ・ 2 後	64	4	0		0			0	
15	0			卒業制作	2年間の集大成として、旅行イベントを企 画・立案・実践する	2 後	96	6		0	0		0	0	
16		0			サービス業界を学ぶ(ホテル、鉄道、ブラ イダル、エアライン)	2 後	32	2	0		0			0	
17		0		手話	手話検定4級を目指す	2 後	32	2	0		0		0		
18		0		旅程管理	旅程管理主任者を目指す(国内)	1 後	32	2	0			0		0	
19			0	手話	手話検定4級を目指す	1 後	32	2	0		0			0	
20			0	英会話	ネイティブ講師による日常英会話	1 通	64	4	0		0			0	
21			0	パソコン実習	ワードとエクセルの基本操作	1 通	64	4		0	0			0	
22			0	旅程管理	旅程管理主任者を目指す(海外)	1 後	32	2		0		0		0	0
23			0	ホテル概論	ホテル・宿の知識を得る	2通	64	4	0		0			0	
24			0	企業実習	旅行会社でのインターンシップ	<b>−後・2%</b>		20		0		0			
		-	合	<u></u>	24	杉	- 目			2560	単位	立 (.	単位	時間	引)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 108単位以上を取得。その内必修・必修選択科目は96単位以上取得し	1 学年の学期区分	2 期
履修方法:必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる。	1 学期の授業期間	16 週

#### (留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

# 職業実践専門課程等の基本情報について

専門学校東京ホスピ	゚ゟリティ		可年月日		長名		162-0843	所在地			
・		昭和54	年10月1日	千芽	葉 敦		東京都新宿区市谷田 )3-3235-5713	町3-21			
設置者名		設立認	可年月日	代表	長者名	〒 -	101-0062	所在地			
学校法人21世紀ア	カデメイア	昭和42	年1月12日	田坂	広志	(住所)	東京都千代田区神田 D3-3292-0662	駿河台2-11			
分野		認定課程名	旅行与			専門	士認定年度	高度専門士認定	年度		<u>專門課程認定年度</u>
商業実務 	<b></b>	見光専門課程 ————	רואת	攻		平成	7(1995)年度	_		平成2 ———	27(2015)年度
学科の目的		のニーズ(コミュニ できる人財の育原			ーション能力・	・考える力・ビ	ジネスマナー)に合った	こカリキュラムを実施し	、旅行・観光	業界と共同し	たながら卒業後に社
学科の特徴(取得可 能な資格、中退率 等)		·旅行取扱管理都	<b>者、旅程管理主</b>	任者、国内・海	·外地理検定	、インフィニ枝	定				
修業年限	昼夜	全課程の修了	イに必要な総授 単位数	業時数又は総	講	義	演習	実習	実馬	<b></b>	実技
2	昼間	※単位時間、単位	いずれ 1,5	920 単位時間	1,568	単位時間	0 単位時間	992 単位時間	0 🗎	単位時間	0 単位時間
年		かに記入		単位 ————————————————————————————————————		単位	単位	単位	È	単位	単位 ————————————————————————————————————
生徒総定員	生徒到	実員(A)	留学生数(生徒)	に員の内数)(B)	留学生害	引合(B/A)					
70 人		: 人		0 人	0	%					
	■卒業者 ■就職希	数(C) 望者数(D)	:	0		人					
	■就職者	数(E)	:	0		<del></del>					
	<u>■地元就</u> ■就職率	職者数(F) (E/D)		0		<u>人</u> %					
		に占める地元就	間では 間で 間で に に に に に に に に に に に に に に に に に	/E)							
	 ■卒業者(	に占める就職者	の割合 (E/C)	0		%					
				0		%					
就職等の状況	■進学者 ■その他			U		人					
	(令和		度卒業者に関する	令和4年5月	1日時点の情	幸段)					
		職先、業界等									
	【(令和6年度 【卒業生0	<b>卒業生</b> )									
<i>**</i>		評価機関等から、例えば以下につ		:			無				
第三者による 学校評価		、例えば以下につ		:				評価結果を掲載した			
				:	受審年月:			評価結果を掲載した ホームページURL			
学校評価 当該学科の	※有の場合	で、例えば以下につ 評価団体:	かいて任意記載		受審年月:						
学校評価 当該学科の	※有の場合	、例えば以下につ	かいて任意記載		受審年月:						
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 https://w	が、例えば以下につ 評価団体: www.tit.ac.jp/de	Pいて任意記載 partment/trav		受審年月:						
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 https://w	で、例えば以下についまで、例えば以下についます。 評価団体: www.tit.ac.jp/de	Pいて任意記載 partment/trav		受審年月:				2, 560 i	単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 https://w	京、例えば以下についます。 評価団体: www.tit.ac.jp/dep 立時間による算定 総授業時数	Pいて任意記載 partment/trav	el/		業時数			•	単位時間単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 https://w	i、例えば以下につ 評価団体: www.tit.ac.jp/de な時間による算定 総授業時数	partment/trav	el/ した実験・実習	習・実技の授	業時数			224 🗎		
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 https://w	i、例えば以下につ 評価団体: www.tit.ac.jp/de な時間による算定 総授業時数	partment/trav E) 5企業等と連携	el/ した実験・実習	習・実技の授	業時数			224 <u>i</u> 0 <u>i</u>	単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 https://w	i、例えば以下につ 評価団体: www.tit.ac.jp/de な時間による算定 総授業時数	partment/trav partment/trav 5企業等と連携 5企業等と連携 5必修授業時数	el/ した実験・実習	習・実技の授 美時数				224 i 0 i 1, 920 i	単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	※有の場合 https://w	i、例えば以下につ 評価団体: www.tit.ac.jp/de な時間による算定 総授業時数	partment/trav b企業等と連携 b企業等と連携 b必修授業時数 うち企	el/ した実験・実習 した演習の授業	習・実技の授 美時数 ≃必修の実験	・実習・実技			224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ±	単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL	※有の場合 https://w (A:単位	が がWw.tit.ac.jp/de な時間による算定 総授業時数 うた うた	partment/trav b企業等と連携 b企業等と連携 b必修授業時数 うち企	el/ した実験・実習 した演習の授業 業等と連携した 業等と連携した	習・実技の授 等時数 こ必修の実験 こ必修の演習	・実習・実技 の授業時数			224 ± 0 ± 1,920 ± 224 ± 0 ±	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等の実施状況	※有の場合 https://w (A:単位	が がWw.tit.ac.jp/de な時間による算定 総授業時数 うた うた	partment/trav 5企業等と連携 5企業等と連携 5必修授業時数 うち企 うち企	el/ した実験・実習 した演習の授業 業等と連携した 業等と連携した	習・実技の授 等時数 こ必修の実験 こ必修の演習	・実習・実技 の授業時数			224 ± 0 ± 1,920 ± 224 ± 0 ±	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームRL と 業等の実 と 連携 し 状 れ し た こ と り に し に し に し に し に り し た り し れ し し た り し り し り し り し り し り し り し り し り	※有の場合 https://w (A:単位	が がWw.tit.ac.jp/de な時間による算定 総授業時数 うた うた	partment/trav Some services in the company of th	el/ した実験・実習 した演習の授業 業等と連携した 業等と連携した	習・実技の授 等時数 こ必修の実験 こ必修の演習	・実習・実技 の授業時数			224 ± 0 ± 1,920 ± 224 ± 0 ±	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等の実施状況	※有の場合 https://w (A:単位	京、例えば以下についまでは、例えば以下についまでは、例えば以下についまでは、 がww.tit.ac.jp/de 立時間による算定 総授業時数 うま うま	partment/trav Some services in the company of th	el/ した実験・実習 した演習の授業 業等と連携した 業等と連携した	習・実技の授 等時数 こ必修の実験 こ必修の演習	・実習・実技 の授業時数			224 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ±	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームRL と 業等の実 と 連携 し 状 れ し た こ と り に し に し に し に し に り し た り し れ し し た り し り し り し り し り し り し り し り し り	※有の場合 https://w (A:単位	下、例えば以下についまでは、例えば以下についまでは、例えば以下についまでは、 対はいまでは、では、までは、では、までは、までは、までは、までは、までは、までは、まで	partment/trav Some services in the company of th	el/ した実験・実習 した演習の授業 業等と連携した 業等と連携した 携したインター	留・実技の授 き時数 こ必修の実験 こ必修の演習 ーンシップの	・実習・実技 の授業時数 授業時数)			224 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ±	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームRL と 業等の実 と 連携 し 状 れ し た こ と り に し に し に し に し に り し た り し れ し し た り し り し り し り し り し り し り し り し り	※有の場合 https://w (A:単位	下、例えば以下については、例えば以下については、例えば以下については、 がww.tit.ac.jp/de は は は は では では できます。 ままままます。 ままままままままままままままままままままままままままま	partment/traves  S企業等と連携  S企業等と連携  S必修授業時数  うち企  うち企	el/ した実験・実習 した演習の授業 業等と連携した 携したインター	留・実技の授 美時数 こ必修の実験 こ必修の演習 ーンシップの	・実習・実技 の授業時数 授業時数)			224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ±	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームRL と 業等の実 と 連携 し 状 れ し た こ と り に し に し に し に し に り し た り し れ し し た り し り し り し り し り し り し り し り し り	※有の場合 https://w (A:単位	が ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	partment/traves  Some services and services are services and service	el/ した実験・実習 した演習の授業 業等と連携した 携したインター	留・実技の授 美時数 こ必修の実験 こ必修の演習 ーンシップの	・実習・実技 の授業時数 授業時数)			224 ± 0 ± 1, 920 ± 320 ±	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームRL と 業等の実 と 連携 し 状 れ し た こ と り に し に し に し に し に り し た り し れ し し た り し り し り し り し り し り し り し り し り	※有の場合 https://w (A:単位	が ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	partment/trav partment/trav 5 企業等と連携 5 企業等と連携 5 かの 5 方を企業等と連携 5 なの 5	el/ した実験・実習 した演習の授業 業等と連携した 携したインター	習・実技の授 き時数 こ必修の実験 こ必をのプの ヨ・実技の授 き時数	・実習・実技 の授業時数 授業時数) 業時数	支の授業時数		224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ±	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科の ホームRL と 業等の実 と 連携 し 状 れ し た こ と り に し に し に し に し に り し た り し れ し し た り し り し り し り し り し り し り し り し り	※有の場合 https://w (A:単位	が ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	partment / trav partment / trav 5 企業等と連携 5 企業等と連携 5 ら企業等と連携 5 ら企業等と連携 5 ら企業等と連携 5 うち企	el/ した実験・実習の授業 業等と連携した した演習の授業 ままませました。 した実験の授業 はた演習の授業	習・実技の授 き時数 こ必修の実験 こ必修のプの ・実技の授 き時数 こ必修の演習	・実習・実持 の授業時数 授業時数) 業時数 ・実習・実持	支の授業時数		224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± ± ± ±	単位時間         単位時間         単位時間         単位時間         単位         単位         単位         単位         単位         単位         単位	
学校評価 当該学科の ホームRL と 業等の実 と 連携 し 状 れ し た こ と り に し に し に し に し に り し た り し れ し し た り し り し り し り し り し り し り し り し り	※有の場合 https://w (A:単位	が ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	partment / trav partment / trav 5 企業等と連携 5 企業等と連携 5 方を企業等と連携 5 た企業等と連携 5 方を企業等と連携 5 方を企業等と連携 5 方を企業等と連携 5 方を企業等と連携	el/ した実験・実習の授業 業等と連携した した演習の授業 ままませました。 した実験の授業 はた演習の授業	習・実技の授 き時数 こ必修の実験 こ必修のプの ・実技の授 き時数 こ必修の演習	・実習・実持 の授業時数 授業時数) 業時数 ・実習・実持	支の授業時数		224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ±	単位時間         単位時間         単位時間         単位時間         単位         単位         単位         単位         単位         単位         単位         単位         単位	
学校評価 当該学科の ホームRL と 業等の実 と 連携 し 状 れ し に こ に こ に こ に こ に こ に こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ れ こ	※有の場合 https://w (A:単位	が ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	partment / trav partment / trav 5 企業等と連携 5 企業等と連携 5 ら企業等と連携 5 ら企業等と連携 5 ら企業等と連携 5 うち企	el/ した実験・実習の授業 業等と連携した した演習の授業 ままませました。 した実験の授業 はた演習の授業	習・実技の授 き時数 こ必修の実験 こ必修のプの ・実技の授 き時数 こ必修の演習	・実習・実持 の授業時数 授業時数) 業時数 ・実習・実持	支の授業時数		224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ±	単位時間 単位時間 単位時間 単位位時間 単位位 単位位位位位位位位位位位位位位	
学校評価 当該学科の ホームRL と 業等の と 連携施状れ た況が	※有の場合 https://w (A:単位	次例えば以下については、例えば以下については、例えば以下については、例えば以下については、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは	partment / trav	el/ した実験・の ま等で と連携・ した演習 携した 実際 で した 実際 で した は まり は は は は り り し た は り し た は り し た は り し し た り し し た り し し た り し り し り し り し	留・実技の授 等時数 に必修のの での での での での での での での での での	・実習・実技 の授業時数 授業時数) 業時数 ・実習・実技 の授業時数)	支の授業時数		224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ±	単位時間 単位時間 単位時間 単位位時間 単位位 単位位位位位位位位位位位位位位	
学校評価 当該学科の ホームRL と 業等の と 連携施状れ た況が	※有の場合 https://w (A:単位	<ul> <li>() () () () () () () () () () () () () (</li></ul>	partment / traversion	el/ にた、 等等 は、 たた、 等等 は、 たた、 等等 は、 たた、 実 演 と と たで、 実 演 と と たでで、 の 携 携 ン 、って、 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	<ul><li>ま 実 技</li><li>で 実 数</li><li>の の の の の の の の の の の の の の の の の の の</li></ul>	・実習・実持の授業時数 授業時数) 業時数 ・実習・事数 ・実業・事数 ・関業・要素を関する。	なの授業時数	ホームページURL	224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ±	単位時間       単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単	
学校評価 当該学科の ホームRL と 業等の と 連携施状れ た況が	※有の場合 https://w (A:単位	で ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	partment / trav partment / trav 要	el/ にた、 等等 は、 たた、 等等 は、 たた、 等等 は、 たた、 実 演 と と たで、 実 演 と と たでで、 の 携 携 ン 、って、 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	<ul><li>ま 実 技</li><li>で 実 数</li><li>の の の の の の の の の の の の の の の の の の の</li></ul>	・実習・実持の授業時数 授業時数) 業時数 ・実習・事数 ・実業・事数 ・関業・要素を関する。	支の授業時数	ホームページURL	224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ±	単位時間       単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単	
学校評価 当該学科の ホームRL と 業等の と 連携施状れ た況が	※有の場合 https://w (A:単位	<ul> <li>() () () () () () () () () () () () () (</li></ul>	partment / trav partment / trav 要	el/ にた、 等等 は、 たた、 等等 は、 たた、 等等 は、 たた、 実 演 と と たで、 実 演 と と たでで、 の 携 携 ン 、って、 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	<ul><li>ま 実 技</li><li>で 実 数</li><li>の の の の の の の の の の の の の の の の の の の</li></ul>	・実習・実持の授業時数 授業時数) 業時数 ・実習・事数 ・実業・事数 ・関業・要素を関する。	なの授業時数	ホームページURL	224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ±	単位時間       単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単	
学校評価 当該学科の ホームVRL と 業等の実施 し に と と と と と と と と と と と と と と と と と と	※有の場合 https://w (A:単位	で	partment / trav partment / trav 要	el/ にた、 等等 は、 たた、 等等 は、 たた、 等等 は、 たた、 実 演 と と たで、 実 演 と と たでで、 の 携 携 ン 、って、 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	<ul><li>ま 実 技</li><li>で 実 数</li><li>の の の の の の の の の の の の の の の の の の の</li></ul>	・実習・実持 の授業時数 授業時数 ・実習・実持 の授業時数 ・実業時数 ・専修学	なの授業時数	ホームページURL 第1号)	224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ±		
学校評価当本学校評価当本 URL等等、にとのB記とのB記連実い入し状れ真性集施ず	※有の場合 https://w (A:単位	で	partment / trav    Partment / trav   Partment	el/ にた、 等等 は、 たた、 等等 は、 たた、 等等 は、 たた、 実 演 と と たで、 実 演 と と たでで、 の 携 携 ン 、って、 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	<ul><li>ま 実 技</li><li>で 実 数</li><li>の の の の の の の の の の の の の の の の の の の</li></ul>	・実習・実技の授業時数 授業時数) 業時数・実費・要性の ででである。 ・実際である。 ・実際である。 ・実施のでは、では、できる。 ・実施のできる。 ・実施のできる。 ・実施のできる。 ・実施のできる。 ・実施のできる。 ・実施のできる。 ・実施のできる。 ・実施のできる。 ・実施のできる。 ・実施のできる。 ・実施のできる。 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、	校設置基準第41条第1項	ボームページURL 第1号)	224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ±		
学校当ホーリス当家 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	※有の場合 https://w (A:単位	(大)	partment / trav    Partment / trav   Partment	el/ しし、業業・ ととた、 実っで表した。 実っで表した。 まっで表した。 まっで表した。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	<ul><li>ま 実 技</li><li>で 実 数</li><li>の の の の の の の の の の の の の の の の の の の</li></ul>	*・実習・実技の受業時数 ・実の受験を要素を表する。 ・実のでである。 ・実のできまする。 ・実のできまする。 ・実のできまする。 ・実のできまする。 ・実のできまする。 ・実のできまする。 ・実のできまする。 ・実のできまする。 ・関係をできまする。 ・変をできまる。 ・変をできる。 ・変をできる。 ・変をできるをできるをできるをできるをできるをできるをできるをできるをできるをできる	校設置基準第41条第1項	ボームページURL 第1号) 第2号) 第3号)	224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ±		
学校評価当本学校評価当本 URL等等、にとのB記とのB記連実い入し状れ真性集施ず	※有の場合 https://w (A:単位	(大)	partment / trav  partment / trav  (ま)	el/ しし、業業・ よたた。 実験・習・連・オートでは、 まりでする。 は、は、カートでは、 は、カートでは、 では、 カートでは、 では、 カー・ では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カー・ では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 ・ カートでは、 ・ カー・ では、 カー	<ul><li>ま 実 技</li><li>で 実 数</li><li>の の の の の の の の の の の の の の の の の の の</li></ul>	(・実習・実物) (・実習・実数 (・実習・実数 ・ 実 受 実	校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	ボームページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	224 ± 0 ± 1,920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ±		
学校当ホーリス当ホーリス当ホーリスとのB記とのB記とのB記とのB記とのB記しまたとのBにするし状れ専記年記	※有の場合 https://w (A:単位	(大) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	partment / trav  partment / trav  (ま)	el/ しし、業業・ よたた。 実験・習・連・オートでは、 まりでする。 は、は、カートでは、 は、カートでは、 では、 カートでは、 では、 カー・ では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カー・ では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 ・ カートでは、 ・ カー・ では、 カー	<ul><li>ま 実 技</li><li>で 実 数</li><li>の の の の の の の の の の の の の の の の の の の</li></ul>	(・実習・実物) (・実習・実数 (・実習・実数 ・ 実 受 実	校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	ボームページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	224 ± 0 ± 1,920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ± ±	单单单单单单单单 人 人人人人的 一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	
学校当本当家公当本世界とのB記とのB記とのB記上級連実い入世代でで大況か	※有の場合 https://w (A:単位	<ul> <li>(本)</li> <li>(本)<td>partment / trav  partment / trav  (ま)</td><td>el/ しし、業業・ よたた。 実験・習・連・オートでは、 まりでする。 は、は、カートでは、 は、カートでは、 では、 カートでは、 では、 カー・ では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カー・ では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 ・ カートでは、 ・ カー・ では、 カー</td><td><ul><li>ま 実 技</li><li>で 実 数</li><li>の の の の の の の の の の の の の の の の の の の</li></ul></td><td>(・実習・実物) (・実習・実数 (・実習・実数 ・ 実 受 実</td><td>校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項</td><td>ボームページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)</td><td>224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± 1 , 1 , 2 , 2 , 2</td><td>单单单单单单单单 人 人人人人的 一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个</td><td></td></li></ul>	partment / trav  partment / trav  (ま)	el/ しし、業業・ よたた。 実験・習・連・オートでは、 まりでする。 は、は、カートでは、 は、カートでは、 では、 カートでは、 では、 カー・ では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カー・ では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 では、 カートでは、 ・ カートでは、 ・ カー・ では、 カー	<ul><li>ま 実 技</li><li>で 実 数</li><li>の の の の の の の の の の の の の の の の の の の</li></ul>	(・実習・実物) (・実習・実数 (・実習・実数 ・ 実 受 実	校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	ボームページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± 1 , 1 , 2 , 2 , 2	单单单单单单单单 人 人人人人的 一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	
学校当ホーリス当家 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	※有の場合 https://w (A:単位	<ul> <li>(本)</li> <li>(本)<td>partment / trav  partment / trav  (本)</td><td>el/ にたた 等等したた 等等したたで 実 授 し し 実 授 し し ま 演 と と た ま 演 と と た ま 演 と と た ま で の 携 携 ン 、っ間 は し り で で と と た で たで たで た で た で と と で と と で と と で と と で と と で と で</td><td><ul><li>ま時</li><li>と と と と と と と と と と と と と と と と と と と</li></ul></td><td>・実習・実物 ( す す す す す す す ず を を を を を を を を を を を を</td><td>校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項</td><td>ボームページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)</td><td>224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± 1 , 1 , 2 , 2 , 2</td><td>单单单单单单单单 人 人人人人的 一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个</td><td></td></li></ul>	partment / trav  partment / trav  (本)	el/ にたた 等等したた 等等したたで 実 授 し し 実 授 し し ま 演 と と た ま 演 と と た ま 演 と と た ま で の 携 携 ン 、っ間 は し り で で と と た で たで たで た で た で と と で と と で と と で と と で と と で と で	<ul><li>ま時</li><li>と と と と と と と と と と と と と と と と と と と</li></ul>	・実習・実物 ( す す す す す す す ず を を を を を を を を を を を を	校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	ボームページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± 1 , 1 , 2 , 2 , 2	单单单单单单单单 人 人人人人的 一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	
学校当ホーリス当家 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	※有の場合 https://w (A:単位	<ul> <li>(本)</li> <li>(本)<td>partment / trav  partment / trav  partment / trav</td><td>el/ にたた 等等したた 等等したたで 等等したた で 等等した で で で で で で で で で で で で で で で で で で で</td><td><ul><li>ま時</li><li>と と と と と と と と と と と と と と と と と と と</li></ul></td><td>・実習・実物 ( す す す す す す す ず を を を を を を を を を を を を</td><td>校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項</td><td>ボームページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)</td><td>224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± 1 , 1 , 2 , 2 , 2</td><td>单单单单单单单 人 人人人人人的 一种 一种</td><td></td></li></ul>	partment / trav  partment / trav  partment / trav	el/ にたた 等等したた 等等したたで 等等したた で 等等した で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	<ul><li>ま時</li><li>と と と と と と と と と と と と と と と と と と と</li></ul>	・実習・実物 ( す す す す す す す ず を を を を を を を を を を を を	校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	ボームページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	224 ± 0 ± 1, 920 ± 224 ± 0 ± 320 ± ± 1 , 1 , 2 , 2 , 2	单单单单单单单 人 人人人人人的 一种	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

日々変わりゆく旅行業界のなかでも、接客マインド溢れる人材だけは変わることなく常に必要とされ続けてきた。だが一方で、ITやAIの発達により販売チャネルが変化しつつあることも見逃すことはできない。変わりゆく旅行業界の最先端の状況を企業連携により学生へ伝え、将来必要とされる知識とスキルを学ぶことを目的とする。観光マネジメント専攻は、SNSやマーケティングなど現在の企業の取り組みを、企業連携の授業から学ぶ。

#### (2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む 教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

#### (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年8月1日現在

		<u> </u>	月1日現江
名 前	所 属	任期	種別
中込 元		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	1
柏倉 幸彦		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	3
永井 竜介		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	_

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
  - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
  - ②学会や学術機関等の有識者
  - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年11月28日 16:00~17:00

第2回 令和7年3月25日 16:00~17:00

### (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

コロナ渦が解消され、インバウンド業界は大きく伸びているが、日本人の旅行者数は横ばいの状況が続いている。旅行業界を目指す若い世代に、旅行の楽しさや旅行に行くことのメリットを感じてもらい将来につなげるために、校外授業を増やすという提案があり、旅行ゼミ授業の中で取り入れていく予定である。また、PCスキルや外国語の重要性についても、全体としての目標設定や達成レベルに課題があり、授業内容の検討を行う。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

「旅行業界が求める人材の育成」を実現するため、企業と連携した実践的な実習授業を行う事により、実践的かつ専門的能力をもった業界人を育成することが基本方針である。

具体的には、企業もしくは団体により実習における教育内容に関連する指導方法、評価方法、教材作り等に対する助言、 資料等の提供を受け、科目を担当する教員と連携団体の講師がこれに検討を加え、実践的な授業の改善及び工夫を行っ ていくものとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

旅行ゼミの授業では、様々な業態の旅行会社の現役社員を講師として実習・演習を行っている。株式会社エイチ・アイ・エス様を講師とする授業では、旅行カウンター教室を利用し、販売ロールプレイングやパンレットに基くディストネーション研究など実際の店舗と同じ内容で実践的な力を身につけている。また、株式会社エアトリ様とは、同社ホームページに掲載するための国内ツアープランニング授業を行い、企画カやプレゼンテーションカの向上を目指している。それぞれ接客スキルと課題作品・プレゼンテーションを数値化し成績評価としている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連携企業等
旅行ゼミ	旅行商品の予約・販売を校内実習教室を使い、他学科学生を対象に実施。接客スキルやパッケージ商品の読み方などを学ぶ。	株式会社エイチ・アイ・エス
旅行ゼミ	オンライントラベルエージェントとしての国内ツアープランニング指導を実施。宿泊研修と連動させ、実地調査を活かした企画の作り方や見せ方を学ぶ。	株式会社エアトリ
旅程管理研修	添乗員に必須の資格である国内旅程管理主任者を取得 することを目的とし、学内講座と日帰りバス研修を実施。	株式会社阪急トラベルサポート

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
- ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
- ①専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 国際ツーリズムトレードショー視察 連携企業等:株式会社JTBなど

期間: 令和7年6月26日 対象: 学科職員

内容観光業界のDX化の現状視察と今後学生たちに必要となる知識やスキルの情報収集

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教育現場におけるコーチング 連携企業等:日本スクールコーチ協会

期間: 令和6年6月5日 15:30~17:00 対象: 全教職員

内容コーチングの基本となる考え方を学び、教育現場での学生への活用をのし方を学んだ。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 地方創生ツーリズムEXPO視察 連携企業等: 未定

期間: 令和7年11月28日 対象: 学科職員

内容 地方創生のための様々なツーリズムを学び、次年度カリキュラム作成への情報収集

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: アカデミックハラスメント研修 連携企業等: NPOアカデミックハラスメント研修

期間: 令和7年12月 対象: 全教職員

内容・カッスはようによるでは、学生とのコミュニケーション方法や学内での報告体制づくりなどア

カハラ防止に向けた対応を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1)学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連 業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの 柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

	グ 共 日 C O 7 月 心
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2)学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3)教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7)学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8)財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11)国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営を、レベル別クラスに分割して行うなど、より学生の状況にあわ せてものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

#### (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所属	任期	種別
高木 友子		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
木村 克也	日本マナー・プロトコール協会	01 H (2 + /	協会役員
西田 篤史	株式会在Feeling Design	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
小林 隆	有限会社果武旅行サービス	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
米倉 洲		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	卒業生

))

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・ その他(

https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html 令和7年9月1日 URL:

公表時期:

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況 に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評 価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していく ものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・ その他(

))

https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html 令和7年9月1日 URL:

公表時期:

# 授業科目等の概要

	#RE	-														
		分類							授	業プ		場	所	教	員	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習・実技		校外		兼任	企業等との連携
1	0			国家試験対策	国内及び総合旅行業務取扱管理者資格の取 得を目指す	T 前 · 2 · ·	##	28	0			0		0	0	
2	0			ス(旅行会社	旅行会社社員による講座で、最新の知識や 情報を学び、旅行の企画から造成、集客ま で、一連の流れを習得する	通	96	6	0			0		0	0	
3	0			ユニバーサル ホス ピ タ リ ティ(SPI 対 策)	旅行会社に就職するための知識を学ぶ	一通・2前	96	6	0			0		0	0	
4	0			海外観光地理	世界遺産等をはじめとする観光地理につい て学ぶ		64	4	0			0			0	
5	0				時差計算、航空時刻表の読み方、海外の鉄 道時刻表の読み方など、海外旅行の基礎的 知識を学ぶ		32	2	0			0		0	0	
6	0			航空運賃	国際線の航空運賃計算について学ぶ	1 後	64	4	0			0		0	0	
7	0			マーケティン グ知識(旅行 業界研究)	旅行業界の現状と動向について学ぶ	1 通	64	4	0			0		0		
8	0			旅行演習Ⅱ	リアルビジネス(旅行会社実践授業)から の流れで行う、グループワーク中心の実習 授業。	-後・2後	##	12			0	0		0	0	0
9	0			予約端末実習 (AXESS)	航空会社端末による空席照会(JAL)	一通・2前	96	6			0	0			0	
10	0			就 職 対 策 (キャリアガ イダンス)	自己PRや面接練習等を行う	↑後・2 並	64	4	0			0		0		
11	0			実 用 英 語 (TOEIC)	TOEIC対策授業で600点以上のスコアを目指 す	湿	##	16	0			0		0	0	
12	0			実用英語(旅 行英語)	海外旅行で必要な英語を学習する	T通・2涌	##	8	0			0		0	0	

13	0			習・パソコン	旅行会社では、パソコンのスキルは必須であり、パソコンを使い、旅行パンフレット およびホームページの効果的な作成方法な どを総合的に学んでいく	進	" "	8		0	0			0	
14	0				社会人として必要な立ち居振る舞い・言葉 使いなどを習得する	前 ・ 2 後	64	4	0		0			0	
15	0			卒業制作	2年間の集大成として、旅行イベントを企 画・立案・実践する	2 後	96	6		0	0		0	0	
16		0			サービス業界を学ぶ(ホテル、鉄道、ブラ イダル、エアライン)	2 後	32	2	0		0			0	
17		0		手話	手話検定4級を目指す	2 後	32	2	0		0		0		
18		0		旅程管理	旅程管理主任者を目指す(国内)	1 後	32	2	0			0		0	
19			0	手話	手話検定4級を目指す	1 後	32	2	0		0			0	
20			0	英会話	ネイティブ講師による日常英会話	1 通	64	4	0		0			0	
21			0	パソコン実習	ワードとエクセルの基本操作	1 通	64	4		0	0			0	
22			0	旅程管理	旅程管理主任者を目指す(海外)	1 後	32	2		0		0		0	0
23			0	ホテル概論	ホテル・宿の知識を得る	2通	64	4	0		0			0	
24			0	企業実習	旅行会社でのインターンシップ	<b>−後・2%</b>		20		0		0			
		-	合	<u></u>	24	杉	- 目			2560	単位	立 (.	単位	時間	引)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 108単位以上を取得。その内必修・必修選択科目は96単位以上取得し	1 学年の学期区分	2 期
履修方法:必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる。	1 学期の授業期間	16 週

#### (留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。